## 山に触れ、山を知り、山を楽しむ一日
### ひろしま「山の日」県民の集い

REPORT 1

▲クラフト教室を楽しむ親子

第11回ひろしま「山の日」県民の集いが6月3日、県内11会場で開催されました。

これは広島県が主催するイベントで、6月の第1日曜日を“ひろしま「山の日」”として、山の手入れや体験型の多彩なプログラムを取り入れた集いを毎年行っています。

庄原会場となった「板橋さとやま学びの森」では、地元の板橋一心太鼓と永江太鼓の競演を皮切りに、木を使ったコマやネックレス作りなどが楽しめる森のクラフト教室、NPO法人七塚原自然体験活動研究センター理事長の西村清巳さんによる野草の自然観察会などが行われました。

また、ペレットストーブやペレット調理器具の展示が行われ、その調理器具で焼いたピザが来場者に振舞われました。

▲自然観察会のようす

参加者は「よく手入れされた森林の中で心地よい1日が過せた」と喜んでいました。

## 糀(こうじ)づくりのプロがレシピを伝授
### 古式の農事で塩糀づくり体験

REPORT 2

▲塩糀づくりに挑戦する参加者

『糀屋熊本さんに教わる糀レシピ体験』が5月30日、食彩館しょうばら ゆめさくらで開催されました。

これは、昨年開催された「庄原さとやま博」の体験メニューを「next庄原さとやま博　もっとステキに輝き体験」として新たにメニュー化し、昨年度から継続の“古式の農事”企画として実施されたものです。

この日は、福山市などから16人が参加し、この道60年の経験をもつ「熊本糀店」熊本洋子さん（川北町）から、いま話題の塩糀や甘酒、即席糀味噌づくりを教わりました。また、糀を使った漬物や炒めものなどの試食会も行われました。

参加者は「すぐに家庭で実践できるように教えてもらった」「熊本さんの説明がとても分かりやすかった」と喜んでいました。

熊本さんは「糀づくりを通して参加者の皆さんと楽しく交流できたことが良かった」と話していました。

## 上達の道はあきらめずチャレンジ
### フライングディスク教室

REPORT 3

口和町福祉協会が主催する第1回フライングディスク教室が5月24日、口和自治振興センターで開催されました。

フライングディスクは直径約20㌢の円盤状のディスクを投げてゴールしたり、投げたディスクの距離を競ったりと、いろいろな競技があり、正確にディスクを投げることが求められる競技です。

町内から参加した7人は、スポーツ交流センターおりづるの指導員から、ディスクの投げ方や、ゴールを通過させるコツなどを教わりました。5～7m先の直径91.5cmのゴール枠を通そうと何度もチャレンジ。初めはディスクが左右に流れ、なかなかゴールできませんでしたが、繰り返しチャレンジし徐々に上達。ゴールしたときには笑顔がこぼれていました。

▲投げ方のコツを学ぶ参加者

参加者は「久しぶりに体を動かし、いい汗をかいた。また参加したい」と汗をぬぐっていました。



## 水夢から交流と学びの贈りもの
### 第1回レガロフェスタin水夢

REPORT 4

▲アクアエクササイズ

西城温水プール水夢を地域住民の健康維持や体力づくりに役立ててもらおうと6月3日、「第1回レガロフェスタin水夢」が開催され、200人を超える参加がありました。

館内では、ヒップホップダンスやアクアエクササイズ、県立広島大学庄原キャンパス水泳部によるパフォーマンス、住民も参加してのベビースイミングなどが行われ、館内は歓声と拍手が響いていました。そのほか、アロマオイル作り体験や庄原消防署西城出張所による水上安全教室なども開催。また、水夢横の芝生広場では「水夢バザール」が設けられ、西城ならではの食のもてなしが大好評でした。

実行委員長の堂本時和さんは「レガロとは贈り物という意味。交流し水に触れ合う楽しみを水夢からの贈り物として届けられた。水夢を幅広い交流と学びの拠点にしていきたい」と話していました。

▲水夢バザール

## まちづくりへの期待を胸に渡り初め
### 比和まちなか大橋開通

REPORT 5

▲園児たちも渡り初め

国道432号線から西城町を結ぶ県道西城比和線「比和まちなか大橋」が5月31日に開通し、渡り初め式が開催されました。

当日は、完成を待ちわびていた多くの地域住民が式典に参加。たくさんの拍手に包まれての開通となりました。

「比和まちなか大橋」は総延長27.5m、全幅10.25m。生活面での利用だけでなく、福田頭やあけぼの荘へも観光客をいざない、新たなまちづくりへの架け橋として期待されています。

橋を訪れた比和保育所園児21人も、橋の手前の交差点で交通ルールの講習を受けた後、渡り初めに参加。「新しい道のにおいがする」「きもちいい」と感想を話しながら、真新しいアスファルトの感触と橋から見える比和川の景色を楽しみました。

## 旬をおいしくいただきます
### 山の幸・野の幸を味わう会

REPORT 6

総領の旬を味わう「山の幸・野の幸を味わう会」が5月15日、総領健康福祉センターで開催され、町内から18人が参加しました。

これは、地産池消を進めている地元のグループ「旬菜食堂グループ」が、地元食材とそれを有効活用する方法を広く知ってもらおうと開催したものです。

当日は、総領産のたけのこやふき、ぜんまいなど13種類の旬な食材を使って、煮物、和え物、茶碗蒸しをみんなで調理しました。

参加者は出来上がった料理を味わいながら、「山菜を使った料理をするのは初めて」「参加者それぞれの味を知ることができた」「色々な人と交流できて楽しい」などと会話を弾ませていました。

▲楽しく調理する参加者の皆さん

# 将来の夢に向かって第一歩

## 高野中学校2年生が職場体験学習

REPORT 7

▲下高保育所で園児とふれあう

働くことの意義やこれからの自分の生き方を考えることを目的に6月6日～8日の3日間、高野中学校の2年生18人が、飲食店、農園、消防署など町内9つの事業所で職場体験をしました。

3人が職場体験した市役所高野支所で、健診事業の補助や防災無線放送の収録などを体験した名越美穂さんは「同じ市役所支所でも室によって仕事の内容がまったく違い、幅広い体験ができて勉強になった。将来の夢を実現するために生かしたい」と意欲を見せていました。

高野中学校の石田拓二教諭は「今回の職場体験で、働くことの意義や大変さ、継続することの大切さを学ぶことができたのでは」と話していました。

この職場体験学習は、引き続き9月にも行われる予定です。

▲防災無線放送の収録を体験

# 地元の産業と自然に触れる

## 東城町いきいき体験学習

REPORT 8

東城町内の小学校全4校の5年生64人が5月10日、11日の2日間、1泊2日の「いきいき体験学習」を行いました。

この体験学習は、町内の企業などの協力のもと18年間続いている取り組みです。

初日は、千手寺などを訪れ、まちの歴史について学んだり、削岩機メーカーを訪れて部品を作る各工程を見学したりしました。削岩機メーカーの見学では、社員の方から機械の組み立て工程や製品について説明を受け、製品が輸出され世界につながっていることを学習しました。

東城小の岩田知弥くんは「機械が大きくて驚いた」と声を弾ませていました。

二日目は、宿泊会場の休暇村帝釈峡周辺で早朝探鳥を行い、国天然記念物「雄橋」などを見学しながらフィールドワークを体験しました。

児童たちは、東城の自然の素晴らしさと世界に誇る産業に触れ、より一層の魅力を感じた2日間になりました。

▲製造部品について質問する児童

# 夏山登山で絶景満喫

## 第42回吾妻山山開き

REPORT 9

吾妻山池ノ原で6月3日、第42回吾妻山山開きが行われ、登山シーズンの幕開けを祝い、登山客ら約2,500人が参加しました。

当日は、夏山登山の安全を祈願する神事式のあと、早乙女が「県民謡バイ流し」や「比和音頭」など伝統の舞を披露し、訪れた人々を楽しませました。舞の輪の中には、飛び入り参加の観光客の姿も見られ、吾妻山が一体となって初夏の訪れを祝いました。

また、各種バザーコーナーでは、「ヤマメ」や「漬け物」など地元の特産品が並べられ、比和地域の味覚でおもてなし。観光客も「きれい」「来年も来たい」と大満足の山開きとなりました。

▲県民謡バイ流し